

場所 山口県宇部市

面積 0.48ha



活動目的 身近な水辺の生物とのふれあいや安らぎのあるビオトープを通じて、生物多様性に関する市民の環境意識醸成を図ることを目的とする。

サイト概要 本サイトは、山口県宇部市の北部中山間地域(標高20m程度)に位置する面積0.48haの休耕田を活用したビオトープである。平成12年度に山口県の厚東川水系水環境21創造事業により地域の有志によりビオトープの企画・造成等が行われて以降、地域住民等による継続的な保全活動により、二次林、ため池・湿地、草地といった里地・里山環境が維持されており、主に市内の親子連れを対象とした自然観察会が定期的に行われるほか、市内外の小学校、団体等の環境学習の場、市民の憩いの場として活用されている。

- 土地利用の変遷** 元の所有者が高齢となり、管理が困難となって耕作放棄地になっていた。2001年に開始された地域住民等による人力の造成作業により、生物多様性豊かな里山環境が形成された。
- サイト周辺の環境** 本サイト周辺にはクヌギをはじめとした二次林が広がるほか、準用河川須賀河内川が隣接しており、本サイトのため池・湿地等は主に当河川からの取水に依存している。川沿いにかつては小規模な水田が広がっていたが、2000年代に耕作放棄が進み本サイトは貴重な水辺環境となった。
- アピールポイント** 本サイトでは、市内小学生とその親を募集し、春から秋にかけて月一回程度の自然観察・体験会を毎年実施しているほか、維持管理作業等を通じて地域住民や協力企業が生物多様性保全を目的とした水辺に触れる貴重な場所であり、市の生物多様性保全、普及啓発の重要な拠点となっている。今後は、自然共生サイトに認定されることで、市内外の生物多様性に対する社会的な関心を高めていくことに貢献したい。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、ため池、湿地(湿性草地)、二次林、草原及びその中央を流れる水路といった異なる環境要素により構成されており、ニホンアカガエル、アサザといった里地里山に生息・生育する動植物が確認されている。

【主な植生】

二次林であるクヌギ-コナラ群落、草原、湿性草地、ため池等で構成される。

【確認された主な動植物など】

本サイト及び周辺では、動物211種、植物131種が確認されている。観察されやすい種は以下のとおりである。

哺乳類:ノウサギ(*Lepus brachyurus*)、カヤネズミ(*Micromys minutus*)

両生類:アカハライモリ(*Cynops pyrrhogaster*)、ニホンヒキガエル(*Bufo japonicus japonicus*)

爬虫類:ニホンヤモリ(*Gekko japonicus*)、ニホントカゲ(*Plestiodon japonicus*)

鳥類:アオサギ(*Ardea cinerea*)、ダイサギ(*Ardea alba*)

昆虫類:チョウトンボ(*Rhyothemis fuliginosa*)、ツチイナゴ(*Patanga japonica*)

魚類:ドジョウ(*Misgurnus anguillicaudatus*)、ミナミメダカ(*Oryzias latipes*)

甲殻類:スジエビ(*Palaemon paucidens*)、モクズガニ(*Eriocheir japonica*)

貝類:マルタニシ(*Cipangopaludina chinensis laeta*)、カワニナ(*Semisulcospira libertina*)

植物:ノビル(*Allium macrostemon*)、ツワブキ(*Farfugium japonicum* var. *japonicum*)



写真の説明：湿地の状況



写真の説明：林と草地の状況

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

主に市内の親子連れを対象とした自然観察会が定期的に行われるほか、市内外の小学校、団体等の環境学習の場、市民の憩いの場として活用されているほか、以前もち米を栽培していた箇所ではハスの栽培を予定している。

【主な植生】

二次林であるクヌギ-コナラ群落、草原、湿性草地、ため池等で構成される。

【確認された主な動植物など】

本サイト及び周辺では、動物211種、植物131種が確認されている。観察されやすい種は以下のとおりである。

哺乳類:ノウサギ(*Lepus brachyurus*)、カヤネズミ(*Micromys minutus*)

両生類:アカハライモリ(*Cynops pyrrhogaster*)、ニホンヒキガエル(*Bufo japonicus japonicus*)

爬虫類:ニホンヤモリ(*Gekko japonicus*)、ニホントカゲ(*Plestiodon japonicus*)

鳥類:アオサギ(*Ardea cinerea*)、ダイサギ(*Ardea alba*)

昆虫類:チョウトンボ(*Rhyothemis fuliginosa*)、ツチイナゴ(*Patanga japonica*)

魚類:ドジョウ(*Misgurnus anguillicaudatus*)、ミナミメダカ(*Oryzias latipes*)

甲殻類:スジエビ(*Palaemon paucidens*)、モクズガニ(*Eriocheir japonica*)

貝類:マルタニシ(*Cipangopaludina chinensis laeta*)、カワニナ(*Semisulcospira libertina*)

植物:ノビル(*Allium macrostemon*)、ツワブキ(*Farfugium japonicum* var. *japonicum*)



写真の説明：林のいきもの探しの状況



写真の説明：昆虫観察会の状況

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトでは、ため池、湿地(湿性草地)、二次林、草原及びその中央を流れる水路といった、典型的な里地里山の環境が見られる。こうした里地里山環境に特徴的なコガタノゲンゴロウ、アサザなどの希少な動植物が確認されている。

【確認された希少種】

環境省あるいは山口県のレッドリスト掲載種として、哺乳類1種、両生類4種、爬虫類1種、鳥類8種、昆虫類19種、魚類3種、貝類1種、植物6種が、それぞれ確認されている。これらの希少種は、主にため池、湿地といった水場の環境で確認される。主な確認種は以下のとおりである。

- ・アカハライモリ(学名:*Cynops pyrrhogaster*、環境省レッドリスト:NT、山口県レッドリスト:NT)
毎年ため池や湿地、草原内の小水路など水場で確認される。
- ・ミサゴ(学名:*Pandion haliaetus*、環境省レッドリスト:NT、山口県レッドリスト:NT)
毎年本サイト上空で確認されるほか、近隣で営巣が確認される。
- ・コガタノゲンゴロウ(学名:*Cybister tripunctatus lateralis*、環境省レッドリスト:VU、山口県レッドリスト:NT)
毎年ため池や湿地など水場での維持管理作業の際に確認される。
- ・オヤニラミ(学名:*Coreoperca kawamebari*、環境省レッドリスト:EN、山口県レッドリスト:EN)
本サイト内及び隣接する須賀河内川で稀に確認される。
- ・アサザ(学名:*Nymphoides peltata*、環境省レッドリスト:NT、山口県レッドリスト:NT)
毎年ため池や湿地など水場で多数の個体が確認される。



写真の説明：アカハライモリ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

本サイトの湿地は、シュレーゲルアオガエルやニホンアカガエルなどの産卵場となっている。また、草地中央を流れる小水路は、アカハライモリの産卵場となっている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

対象となる動物種:シュレーゲルアオガエル(*Zhangixalus schlegelii*)

- ・本サイトでの確認状況: 毎年産卵を確認している。直近では2023年5月に産卵を確認している。
- ・生活史: 3月～5月頃に本サイトの湿地などに産卵する。孵化した幼生は、水域内で小型の水生昆虫などを採餌しながら成長し6月頃に上陸する。翌繁殖期まで姿を見かけることはほとんどないが、樹上生活が中心と言われており、本サイト及び周辺の二次林に生息しているものと考えられる。

対象となる動物種:ニホンアカガエル(*Rana japonica*)

- ・本サイトでの確認状況: 毎年産卵を確認している。直近では2024年2月に産卵を確認している。
- ・生活史: 1月～3月頃に本サイト内の水深の浅い水場に産卵する。孵化した幼生は、水域内で小型の水生昆虫などを採餌しながら成長し5月頃に上陸する。繁殖期には本サイト内のいたるところに卵が確認されるほか非繁殖期にも通年成体が確認されることから、本サイトは、非常に多数の個体の生息・繁殖を支えているものと考えられる。

対象となる動物種:アカハライモリ(*Cynops pyrrhogaster*)

- ・本サイトでの確認状況: ほぼ毎年産卵を確認している。直近では2024年2月に産卵を確認している。
- ・生活史: 4月～6月頃に本サイトの草原内の小水路などに産卵する。その後も水域内で水生昆虫などを採餌しながら生息する。



写真の説明：シュレーゲルアオガエル



写真の説明：ニホンアカガエル

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><活動目的> 身近な水辺の生物とのふれあいや安らぎのあるビオトープを通じて、生物多様性に関する市民の環境意識醸成を図ること</p> <p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会など環境学習の実施(価値4) ・良好な環境学習のフィールドを維持するための管理活動 <p>■管理の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池、湿地 <p>水生昆虫やニホンアカガエル等の里山で繁殖する種の生息環境を確保するため、オオフサモなどの特定外来生物を中心に増えすぎた水生植物を適宜除去する。安定的な水場を確保するため、須賀河内川からの用水路を定期的に浚渫、清掃する(価値3,6,8)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハス田 <p>化学肥料は最小限にとどめるなど環境に配慮した農法で栽培する(価値4,6,8)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草地 <p>草地的な環境を好む種の生育・生息や自然観察等で活用しやすいよう、ノアザミ等昆虫類の利用頻度が高い植物は残しつつ、定期的な草刈りにより、一定程度の草丈に保つ。刈った草や落葉は、樹木育成のため当該ゾーンの二次林に集積する(価値3,4,6)。</p> <p><活動計画の点検・見直し> 本活動計画は5年に1回程度点検し、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>【モニタリング対象】 哺乳類、両生類、鳥類、昆虫類、魚類、貝類、植物を対象とする。</p> <p>【モニタリング場所】 申請サイト全域</p> <p>【モニタリング手法】 哺乳類:目視観察、痕跡・センサーカメラによる確認 両生類:目視観察、採集調査 鳥類:目視観察、鳴き声・センサーカメラによる確認 昆虫類:目視観察、採集調査 魚類:目視観察、採集調査 貝類:目視観察、採集調査 植物:目視観察</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 自然観察会などを通じ、年1回程度調査対象に応じ適切な時期に実施</p> <p>【モニタリング実施体制】 自然観察会講師として招聘する各生物群の専門家の協力を得ながら実施。市民参加型モニタリングの結果も活用。</p>